

## 食事調査法の違いによる栄養摂取状況の比較

○武藤慶子 西明眞理 加瀬綾子

(県立長崎シーボルト大)

【目的】同一対象者に対して、1日当たりの食事記録法と食品頻度法による調査を実施し、食事調査における妥当性について比較検討することを目的とした。【方法】調査期間は、平成11年8月・9月の平日。対象はN短期大学およびS大学の女子学生計38名であった。食事調査は、1日当たりの食事記録法（以下DR）は自己により料理名、食品名および数量を記入、管理栄養士によって面接後、摂取量を確認し、四訂食品成分表で栄養価算定を実施した。食品頻度法は佐々木等（Sasaki et al (1998) J Epidemiol 8:203-215）の開発による半定量食物摂取頻度調査票（以下DHQ）で行った。両調査法による結果の比較は%差（ $(DH-QDR)/DR$ ）で行った。【結果】栄養素等摂取状況は全体的にDRの調査結果がDHQよりは高い傾向がみられた。これはDRが1日の摂取状況から算出されるものであり、DHQが過去1ヶ月前の食習慣から算出されるためと考えられた。

		DR (食事記録)		DHQ (食事摂取頻度法)		%差
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	
エネルギー	kcal	2164	396	1904	549	12
たんぱく質	g	73.7	15.5	61.7	18.1	16
脂質	g	62.0	18.0	67.4	26.2	9
カルシウム	mg	466	168	578	216	24
鉄	mg	8.6	2.0	7.4	2.8	14
ビタミンA	IU	1536	752	2381	1945	55
ビタミンB <sub>1</sub>	mg	1.00	0.30	0.87	0.29	13
ビタミンB <sub>2</sub>	mg	1.10	0.30	1.43	0.48	30
ビタミンC	mg	126	113	100	51	21